

# 園長だより NO32

春の訪れを実感するこの頃、桜の開花宣言もあり、お花見をわくわくと待っている方が多くいることでしょう。

3月9日の卒園式から3週間が経とうとしています。今日まで、思う存分遊ぶことを心掛けながら、入学への期待感を膨らませてきました。

たくましく成長しためろん組の子ども達、小学校へいっても活発にいきいきと自分らしさをだし活動していくことを願っています。

わんぱく、おてんばの子ども達が巣立っていくのは寂しさでいっぱいですが次年度のめろん組(現みかん組)がやるき満々、寂しさも吹き飛ばしてくれます。

## 「赤ちゃんが泣く意味」

卒園するめろん組が0歳児(さくらんぼ組)の頃、私はおおぞら保育園にやってきました。暑い夏、8月1日からの園長就任でした。園長職としてのキャリアはここからスタート、当時のさくらんぼの子ども達をみて、「私も同じ0歳児だな」と子ども達と同じように「ゆっくり、ゆっくり歩もう」と思ったものです。

当時の子ども達を回想すると思わず笑みがこぼれます。印象に残っていることは「よく泣いていた」ということです。

当時は子ども達の泣き声きくたびに「泣く意味を考えたものです」

昔から「泣く子は育つ」「泣く子に乳」と言われてきました。泣くことで周囲の人を自分に呼び寄せるのだから泣いたときはすぐに寄り添ってかかわりなさいと教えられてきました。ただ、親になり育児不安の原因に「子どもの泣き」があります。

「なぜ泣いているの」「泣いた時どうしたらいいかわからない」など困惑したことは誰でも経験していることです。

保育の現場では「赤ちゃんの泣き」を丁寧に紐解いていくことで子ども理解につながっていきます。「どんな時に泣くのか、なぜ泣くのか」泣いた場面にはそれぞれに要因があるはず、その意味や発達に照らし合わせていくことで泣く行為に秘められた思いや訴え、要求が伝わってきます。

## 「泣きの変化」

当時の子ども達は0歳児といっても1歳を過ぎたばかり、またはもうすぐ1歳になる子ども達でした。新生児から6か月ごろまでにみられる「不快を快に変え、心を通わせる大人を求める泣き」から少々変化していました。

寝返り、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、身体の発達もみられる時期、それぞれの視野も広がり周囲への探索活動がはじまります。

思うように前に進めない、欲しいものをつかむことができない、何度やっても思うようにならない、失敗、葛藤を繰り返し、「できないよー」「なんでなのー」と自分の情けなさに泣き、思うようにな

らぬ気持ちが癩癩(かんしゃく)を起こし泣きにつながり、まさに生きるために必要な行動、行為の獲得のための泣きともいえるでしょう。

生後6か月頃までの「心を通わせる大人を求める泣き」を通じ築いてきた愛着関係を基礎に6か月から1歳半ごろまでに大人の支えを受け生活で出会う葛藤や矛盾を子どもなりに乗り越えていくこととなります。

自分自身が育ちたいそして人との繋がりたいという泣きなのでしょうか。



「子どもの泣き」は困ったことではありません。泣きの意味に込められたことを丁寧に読み取り、接していくことを当時のさくらんぼ組の子ども達から学びました。

数日後には新しい園児が入園します。園内は子どもたちの泣き声が響きます。泣きは困ったことではない。それぞれの泣きに寄り添い、子どもたちの理解につなげて関係を育むことに努めていくことが大切です。

## 「あれも これもの 目標」

毎年のこと、私は両手に抱えきれないほどの目標を立てます。目標の達成、実現のために様々なプランを立てたりもするのですが欲を出してしまうと目標は「手の届かない棚の上」にあることが多いようです。

身の丈に合った取り組み、または少々、背伸

びをして届くところの目標の設定なら達成率もあがるのでしょうか。

保育という仕事は成果が数値として出てきません。評価をしようものなら微視的に細部にわたるまで見ていかなければなりません。

毎日、子ども達が楽しかったかな、たくさん遊べたかな、けがはなかったかな、けんかしても仲直りできたかな大人の連携はうまくいったかな明日に期待し元気で来てくれるかな

毎日、振り返り考える 多くの〇〇かな 日々の振り返りに数値として現れない成果を感じることができます。

子ども達は保育士のかかわり、働きかけ、心の内面、様々な感性を反映してくれる鏡ともいえます。寄り添う大人の心の安定が子ども達の育ちの基礎になることは間違いありません。

毎年のこと、あれも、これもと目標立てるのは自粛し、新年度が始まり、子ども達の生活や大人のかかわりを見ながら、「今できること」「子ども達の育ちにとって必要なこと」を丁寧に考え、目標を再考していきたいと思っています。

今年度、保育に対しましてご理解、ご協力ありがとうございました。

新年度も変わらぬご協力、ご支援、よろしくお願い致します。

( 園長 廣部 信隆 )

